

令和元年度第1回三浦市総合教育会議会議録

○日 時 令和元年6月27日(木) 午後3時30分～午後4時22分

○場 所 三浦市役所第2分館第1会合室

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 議 事
(1)三浦市学校教育ビジョン(案)について
(2)その他
- 4 閉 会

○出席者(6名)

市 長	吉 田 英 男
教 育 長	及 川 圭 介
教育長職務代理	下 里 矩 生
教 育 委 員	玉 井 恵 理
教 育 委 員	廣 瀬 牧 実
教 育 委 員	越 智 康 一

○説明のために出席した職員

教 育 部 長	君 島 篤	教 育 総 務 課 長	増 井 直 樹
学 校 教 育 課 長	高 梨 真 一	学 校 給 食 課 長	武 田 健 二
文 化 ス ポ ー ツ 課 長	塚 本 孝 治	初 声 市 民 セ ン タ ー 館 長	蛭 田 一 成
青 少 年 教 育 課 長 兼 図 書 館 長	平 松 恭 輔		

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー 長 島 正 紀

○傍 聴(4名)

○君島教育部長 定刻となりましたので、ただいまより、「令和元年度第1回三浦市総合教育会議」を開会いたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開となりますので、ご承知おきください。

(傍聴希望者がおり議長(市長)に許可を受け傍聴者が入室)

まずはじめに、会議の主催者であります吉田市長からご挨拶をいただきます。市長、お願いいたします。

○吉田市長 皆さん、こんにちは。

今年度第1回の総合教育会議を開催させていただきます。

前回の総合教育会議で、三浦市学校教育ビジョンを策定するというご説明させていただきました。今回の議題は三浦市学校教育ビジョン(案)についてでございます。現在の三浦市学校教育ビジョン(案)について、パブリックコメントを実施しておりまして、議会に報告をしたりですとか、報道等の機会も先行してありましたので、情報というのは既に流れておりますけれども、今日は総合教育会議で、きちんとした方向性等を決めていくということで、ぜひ色々なご意見をいただけたらと思います。最終的に決定するのは政策会議ということで、ご理解いただきたいと思います。

様々なご意見があろうかと思えますし、市民の皆さんからも色々ご意見が出ると思えますので、じっくりという気持ちもありますけれども、一定程度の年限を決めていかないといつまで経ってもできませんので、そういった思いを共有していただけたらと思います。よろしくお願い申し上げます。

○君島教育部長 ありがとうございました。

それでは、次第3の議事に移らせていただきます。

議事の進行につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4において、地方公共団体の長が総合教育会議を設け、また、招集することになっておりますので市長に議長をお願いします。

市長、お願いいたします。

○吉田市長 それでは、議長を務めさせていただきます。

本日の議事は「三浦市学校教育ビジョン(案)について」になりますので、事務局から説明をお願いします。

○増井教育総務課長 三浦市学校教育ビジョン(案)についてご説明いたします。

ビジョン(案)は、表紙を除き全11ページとなっております。

始めに、なぜビジョンの策定に至ったかについて、1ページから5ページ目までに記載しました。

少子化が進み、三浦市でも学校の小規模化が顕著ですが、児童・生徒集団並びに教員集団は、一定程度の規模が確保されていることが望ましいことを最初に記載しております。

次に今までの、本市における検討結果である、平成20年度に決定した「三浦市立小・中学校の適正規模・適正配置及び学校施設の活用に関する基本方針」の内容、それに基づき行った中学校統合の経緯を記載しました。

次に、現状把握として、現在の小学校児童数と令和元年5月20日の学齢簿により推計した将来の児童数並びに保護者・教員を対象に平成28年度に行った学校規模に関するアンケートの結果を掲載しました。

児童数の推計では、今後、今以上に小学校の小規模化は進み、令和6年度には、8校中初声小学校を除く7校が全学年1学級となることが見込まれます。

アンケート結果については、約95%の保護者・教員が「1学年の学級数は、2学級以上がよい」としており、3分の2以上が「今後何らかの対応が必要である」と答えている状況です。

次に、学校現場の現状を記載しました。

小学校の小規模化が進む中で、小規模校ならではのメリットを最大限に生かした取組を行うことや全国的にも先進的な取組である「海洋教育」を地域と連携して展開するなどにより、教育の充実を図ってきていますが、これ以上の小規模化が進むことは、児童にとって重要な、多様な考えに触れる機会、多様性を認め合う活動の機会が減少してしまうこと、教員にとっては、今まで以上の多忙化が進むとともに、教員間の指導力の継承という面でも危機的状況に陥ることを記載しました。

現状を総合的に勘案し、検討した結果、今後想定される学校現場における課題を克服し、子どもたちの健やかな成長を支えていくためには、これまでの教育成果を踏まえつつ、今後の学校の在り方を再考していくことが必要であるとの考えに至ったことから、～すべては子どもたちのために～を基本理念とし「三浦市学校教育ビジョン」を策定することとしました。

6ページ目からは、今後の三浦の学校教育が目指すこと、また、今後すべきこととその理由を記載しています。

まず、今後、三浦の子どもたちがどう育ってほしいかを明確にするため示す二つの子ども像とそういった子どもに育つために養うべき4つの力を、5ページから6ページに記載しました。

目指す子ども像の一つ目は、「心身ともに健康で調和のとれた人間性豊かな子ども」。二つ目は、「郷土と日本の歴史、経済、社会、文化を理解し、郷土三浦を愛する子ども」です。

こういった子どもに育っていくために子どもたちが養うべき力は、(1)自分の持ち味を見つけ、主体的で対話的な深い学びができる力、(2)社会の変化に対応し、しなやかに・たくましく生きる心と体の力、(3)豊かな感性を持ち、感動を分かち合う力、(4)他者の存在を認め、つながる力の4つであります。

これらの力を子どもたちが身につけるために、すべき三つの取組を6ページから7ページに記載しました。

(1)【主体的で対話的な深い学びの実現】、(2)【生徒指導上の課題の改善】、(3)【教師の指導力向上】です。

これら3つの取り組みをすすめていくわけですが、取組を実効あるものとするためには、二つのことが重要かつ必要であり、なおかつそれらは、両立させていくことで大きな成果を生み出すと考え7ページから8ページに記載しました。

9年間を見通した教育課程を編成し、今まで以上に義務教育9年間の成長過程を共有した適切できめ細やかな学習指導、生徒指導を実現すること、一定規模（児童生徒数、教職員数）を確保し、児童生徒同士が、お互いに関わりあい、多様性を認め合い、高めあえる関係を構築することを後押しするため、多数の仲間たちと日常的に触れ合える環境を整えるとともに教員がお互いに高めあい、助け合い、指導力を向上させること、今よりもストレスを増加させることなくその力を発揮できる環境を整えることです。

これらを同時に進めていくことで、小中学校の職員の乗り入れを容易にし、共通の学校教育目標を持てるようにします。

児童生徒は、多様な考えに触れることで自分の考えを深化・発展させる体験や、多様性を認め合う活動の機会が増えます。

教員の日常的なOJTによる指導力の継承や校務分担の軽減により、生徒に向き合う時間が増えることも大いに期待できます。

これらは、9年間を見通した教育課程の編成と一定の学校規模確保を別々に進めていても期待はできますが、相互に関連していることであるため、同時実施により大きな成果を生み出すものです。

9ページ目からは、三浦市の学校教育が目指すことを実現するためのビジョンを記載しています。

9ページから10ページには、三浦市学校教育ビジョンとしてお示しする内容と取組の方向を記載しました。

「三浦の良さを生かしたつながりと深まりのある小中一貫教育の推進」～未来をたくましくしなやかに生きる子どもを育むために～と大きく記載しました。

これは、三浦市学校教育ビジョンの目的を記載したものです。

「未来をたくましくしなやかに生きる子どもを育むこと」が最終的な目的であり、育むために「三浦の良さを生かしたつながりと深まりのある小中一貫教育を推進していく」これが、要約した三浦市学校教育ビジョンです。

以下の記載は、ビジョンの説明となります。

小中一貫教育の推進とは、9年間を見通した学校教育目標を設定し、発達段階に応じた「目指す子どもの姿」を小・中学校に関わる全ての人が共有すること、系統性・連続性のある教育課程を編成すること、三浦の良さを生かし、より充実した教育を推進することにより、将来的に社会に貢献する力を育むことです。

推進に関して、より具体的に記載したものが、取組の方向になります。

(1)「つながり」と「深まり」の重視（小中一貫教育の推進環境整備）、(2)「連続性」と「きめ細やかさ」の重視（小中一貫教育の効率的・効果的な指導）、(3)三浦らしい「多様な学び」の重視をあげました。

最終11ページに、ビジョンを実現する手段を記載しました。

最初にビジョン実現のための大きな取組として、「1中学校区1小学校」の教育体制をつくることをあげました。

本市の現状を重く受け止め、年次を区切り実行するために、令和7年度を目途に実現することを目指します。

そのために令和元年度から、三崎地区・南下浦地区に地域協議会準備会を立ち上げます。

また、通学手段の検討や保護者不安の解消のための取組も同時に実施していきます。

二つ目に、小・中学校相互乗り入れ授業の取組を目指します。

中学校教員の小学校での乗り入れ授業「小・中合同研修会」「小・中合同授業参観」等の実施、三浦市学校教育研究会において「小中一貫教育部会」の新設などを行います。

三つ目に、家庭・地域・学校・行政の相互理解と連携に努めます。

保護者・地域向けの小中一貫教育推進の講演会等を開催していきます。

ビジョン案は、現在、7月16日を締め切りにパブリックコメントを実施しております。

いただいたご意見を検討し、ご意見の内容についてビジョンに反映すべきものにかかる修正を加えます。

また、ビジョン案には今後、目次を加えるとともに、より市民の皆様により分かりやすいビジョンとなるよう文言や章立ての見直しなどを今一度図ることを考えております。

予定では、修正後のビジョン案を7月開催の定例教育委員会にお諮りし、承認をいただき案として確定し、その後、市長以下の委員で構成される政策会議にお諮りし、承認をいただいた後、成案といたします。

以上で説明を終わります。

○吉田市長 ありがとうございます。

説明は終わりました。教育長から何か補足はありますか。

○及川教育長 三浦の現状として、少子化というのは段々進んできておりまして、そういった点では、保護者の方もやはり不安も含めて、関心を持たれているところだと思うんですね。保護者同士の話の中では、規模が小さくなってきた学校、どことどこが一緒になってという話も出ていると聞いています。

ただ、三浦の学校教育のことを考えていくとしたならば、数や規模に視点を当てた考え方ではなくて、三浦の子どもの教育をどうしていくのかということに視点を当てた進め方にしていかなければいけないと思っています。ですから、今回のビジョンの中では、教育の充実、質の向上、それは未来を生きる子どもたちのためということを中心に据えて作ってありますけれども、そこはやはり大切に進めていきたいなと思っています。

○吉田市長 それでは、お一人ずつお話をお聞きしましょうか。越智委員からお願いします。

○越智委員 まず私の捉え方の確認をさせていただきたいんですけども、このビジョンの核になるのは、小中一貫教育というのが核であって、その充実を図るといえるのか、その教育効果を上げるために小学校を一緒にするとか、学区のあり方を考えるというような考え方の順番でよろしいですか。

○及川教育長 若干違うかもしれないですけども、やはり教育の充実、質の向上について、子どもたちのためにそれを進めていくというのが一番。そのことを進めるために、ある一定規模の小学校があった方がいいだろう。そういうことを進めるにあたって一小一中という形を整えることができれば、9年間を見据えた教育を進めることもできるだろう。そういう両輪で、一番のねらいとする教育の質の向上、充実ということを狙っていきたいということです。

ですから、一貫教育を目指していくわけではありません。やはり目指すのは、教育を充実させたい、質を向上させていきたい、子どもたちが未来をたくましくしなやかに生きる力をつけるためにということです。

○越智委員 もう一つ確認したいのですが、小中一貫教育という捉え方というか、認識について、私の捉え方は従来の小中交流とか、小中連携というものを少し強めていくという方向という捉え方ではなくて、いわゆる小中一貫教育というものは、ここにも色々書いてありますけれども、完全に文部科学省が言っているような小中一貫教育というものに近づけていくという捉え方でよろしいのでしょうか。

○君島教育部長 ただ今越智委員からご質問をいただきましたが、小中一貫教育の言葉についての定義だと思います。

平成26年の法令改正によりまして、従来の小中一貫校は義務教育学校というものに名称が変更されました。私どもが三浦市学校教育ビジョンで示したい、あるいは示している小中一貫教育につきましては、義務教育学校ということではございません。あくまでも小中の連携を深めることによって、教育の効果、質を高めたいということでございますので、委員のお言葉をお借りすると、小中連携を更に高めていくということでもよろしいかと思っております。

○及川教育長 義務教育学校の場合には、小中は一つの学校組織となりますので、校長一人に対して職員がいるという形ですけども、今ここで示しているビジョンの学校の体制というのは、1中学校区1小学校ということですので、1つの中学校に対して1つの小学校が置かれる学校体制を作っていくということなんです。

ただ、1中学校区1小学校という中では、小学校の子どもたちがそのまま中学校に上がるということになりますので、9年間同じ子どもたちを見通せる環境も整っているということになりますので、そこは小学校の先生、中学校の先生ともに、子どもたちを9年間見ていけるような、子どもの成長過程を十分に踏まえた上できめ細やかな教育にあたっていけるような環境を整える、そのことによって教育の充実、質の向上を図っていくということです。

○越智委員 分かるんですけども、その部分の共通認識を、ずれがないようにしていかないと、要するに単なる連携とか交流で、単発的に今までもやっているようなものでいいんだなという認識だと、共通認識が深まっていかないような気がします。

逆に、ここに書いているように、小中学校の相互乗り入れ授業というようなことをある程度本格的にやっていくとなると、例えば教員免許はどうするのか。両方持っている先生もいると思いますけれども、持っていない先生はどうするのか。他地区では免許の特例制度を考えているところもあると聞いたことがあるんですけども、あるいは年間指導計画とか授業計画とか、

評価計画だとか、そういう様々な細かいすり合わせというようなことについて、小中が認識を一致させず、ずれたまま進めていくと、ここに書かれたような教育効果というものが高まっていかない恐れがあるので、小中一貫教育というのはどういうものを目指すのかということだけじゃなくて、具体的に三浦の小中一貫教育がどういうものであるのかということも、ぜひお互いの共通認識として進めていただければと思います。

○及川教育長　今のところはとても大切なことだと思っています。教員間の共通の認識も必要でしょうし、あとは地域、保護者の方との認識の共有ということも必要になってきます。

例えば、1中学校区1小学校という言い方にしても、こちらとしてはイメージを持って、こういう書き方をすれば、こういう学校の体制なんだろうと伝わるという思いもあるんですが、色々とお話を聞く中では、そこすらも感じる部分、イメージを描く部分が違うのかなという声も聞こえてきますので、ビジョンを本案にしていく時、または色々な説明をさせていただく機会を設けてもいきたいと思っておりますけれども、そうした中でもきちんと認識が同じになるような説明のしかたをしていければと思っています。

それと、何よりも教育を実際に行っていく教員が同じ理解で進めなければいけないというのが一番思っているところですので、例えば三浦市は学校教育研究会というのがありますけれども、そこで年に一度、市内の教員を全員集めての講演会を行っておりますけれども、市全体の教員が集まる機会を通して、三浦市が目指す小中一貫教育とはどういうものなのかということを説明しながら、共通の認識に立つということ。

また、具体的に、実際に示していかないと「あ、そういうことなのか」という理解も難しいと思います。そういった点では、幸いにも三浦市では、初声地区で1中学校区1小学校という体制が整っているわけです。既に初声小学校、初声中学校では乗り入れの授業、中学校の先生が小学校に行つての授業なども行っているところなんですけど、それにはやはり中学校の先生が小学校に行つて授業を行う時間の確保など、そういう課題も出てきます。その調整というのは、教科が増えるほど必要になってきますので、理科だけでなく、初声小学校、初声中学校とも話を進めているところなんですけれども、今話を進めているのは算数でもできないか、体育でできないか、英語でできないかというところの話もしています。その時間をどう確保するのかということ。

免許ということでは、中学校の先生が小学校の免許を持っていなくても、その教科であれば教えられます。そういうことをきちんと確認しながら、また、教科だけでなく、三浦が今進めている海洋教育、これについても小中学生が一緒にグループになって研究や授業を行うこともできないか、そういうことも考えていきたいと思っています。

乗り入れというと、今のところのイメージは中学校の先生が小学校に行くということなんですけれども、小学校の先生も中学校に行くようなこと、そういうこともできないかということも、初声小学校、中学校という1中学校区1小学校の形が整っている中で色々としながら、その中で課題も出てくると思いますので、それをどう克服していくかということなども考えながら、先ほどの話にも出ましたけれども、学校教育研究会で小中一貫について話し合う部会を設けていきたいと思っておりますので、そういうところで、例えば初声小学校、中学校の実践のことについて話をしたり、あとはそれぞれの地区を生かした取組ができないかなど話をしながら、ビジョン、またはハードの部分も必要になってくると思うんですけれども、そういうと

ころを整えるということが完成ではなく、その中身を充実させるために教員の話し合いなども十分に考えながら進めていければと思っています。

○吉田市長　　よろしいですか。

○越智委員　　はい。

○吉田市長　　では、下里職務代理をお願いします。

○下里職務代理　　教育長の説明も、越智委員の疑問もよく分かります。

ただ、ごく一般的に、新聞を見た保護者や、その他の人たちが小中一貫教育という言葉を理解する方向として、やはり世間一般的に言われている、義務教育学校としての見方が強くなるんじゃないかなと思うんです。そういう中で、義務教育学校として見られると、じゃあ校長は一人なんだな、校舎は別々でどうなるんだろうという疑問が色々出てくると思うんです。

ですから、小中一貫教育という言葉が違う方向に歩き始める前に、その方向性を保護者ないし色々な関係の方々に周知する必要がある、そういう風に思うんですね。ですからその辺りの方向を誤解されないようにきちんと定めていかなければならない。そう思いますのでよろしくをお願いします。

○増井教育総務課長　　これから保護者、PTAの方に説明する機会を設けることになっております。そちらでも十分にご説明しますし、これから文言等も検討させていただきますので、分かりやすい、伝わりやすいビジョンにしていきたいと思っています。

○吉田市長　　玉井委員はいかがですか。

○玉井委員　　保護者の立場からすると、幼稚園、保育園から小学校に上がるだけでも不安があると思うんですけれども、それが1中学校区1小学校ということになりますと、ちょっと遠い所へ行かないといけないことになると思います。そういう不安を解消するために、地域協議会を立ち上げると思うんですけれども、保護者の不安を解消するために、どのように説明とか、協議会を具体的に開いていくのかというのを具体的に聞かせていただきたいと思います。

○君島教育部長　　旧三崎中学校と上原中学校が統合する際にも、どのような議論が進んでいるのかということ、その議論の場にいらっしゃらない保護者の方にも伝わるように、毎月概要をニュースとしてお知らせするという手法を取っておりました。

今後協議会、その前段の準備会にて、従来以上に丁寧に保護者の方、教員の方にお伝えし、目指すべき姿をご理解いただいて進めていきたいと思っていますし、その経過といたしますか、必要な情報は丁寧に、また即時性を高めて周知していきたいと考えております。

○玉井委員 通学手段もビジョンに書いてありますけれども、やはり具体的にこのようにした方がいいということは考えていらっしゃいますか。マイクロバスなどが出てくると思うんですけれども。そういうことを考えていらっしゃるということでよいのでしょうか。

○増井教育総務課長 通学手段については色々なやり方があると思います。例えば委員のおっしゃったようにマイクロバスやスクールバスということもございますし、既存のバス路線を十分に活用し、増便などお願いする場合もあるかと思えます。その際には、通学の費用負担をどう図るべきかという検討を一緒にやっていく必要があると思っています。

その他、今現在も三浦市内の学校は、保護者の送迎が他の地区よりも多い状況にあるかと思えます。そういったものの励行ですとか、色々な手段があると思えますけれども、地域協議会を通じて色々ご意見をいただいて、行政負担も多くなると思えますので、こちらとしてどれだけできるのか、どこまでやらなければいけないのかということを見極めながら、検討していきたいと思っています。

○吉田市長 廣瀬委員はいかがですか。

○廣瀬委員 このビジョンの案を読ませていただいて、感じる事だと思うんですけれども、小中一貫教育の推進の取組として、この9ページのところに「つながり」と「深まり」の重視と書いてあると思うんですけれども、私は普段、乳幼児の世界にいますので、教育というのは本来、誕生してから継続して、つながって深まっていくということで、別に小中学校に限ったことではないなと思っていますので、今回「つながり」と「深まり」の教育ということが文言として載っていることは良いと思いました。

そして、この教育ビジョンの理念である、～すべては子どもたちのために～という部分ですけれども、6ページのところに「目指す子ども像」を実現するための4つの力と書いてありました。子どもたちが未来に希望を持って生きていくための力をつけていけないんですけれども、そのための義務教育、という役割を前提として考えた時に、子どもたちにどのような学校環境が望ましいかを考えた時に、ここにも載っていましたが、多様な考えに触れたりとか、お互いの考え方を認めていくということについては、おのずと一定の規模が必要になっていくことは確かであるということは、色んな方も感じる事だと思います。

ただ、保護者の中には、今現在小規模校もたくさんある中で、そういう所に行っている方の中には、目が行き届くということですか、一人一人きめ細やかに指導してくれるというようなメリットを感じている方も少なくはないと思っていますので、今まで小規模校で進んできた三浦市なりのよい所というのも小中一貫、1小1中になって規模が少し大きくなった時にも、工夫が必要になってくるかなと思います。

また、10ページのところに、三浦らしい「多様な学び」の重視というものがありませんでした。そこには地域力を生かすということが書かれていますけれども、三浦のような小さな市の地域では、特に学校が地域の気持ちの上での柱のようなものになっている、それが根強いような気がします。そのような地域の方々は、自分の地域の学校が無くなることで、精神的にダメージを受ける方も多いのではないかなと思いますけれども、これを推進していくためには地域の方の

協力というのは確実に必要ですし、学校の応援団になっていただかないといけないということは思います。

子どもを主役にした検討、説明を理解していただくためには、丁寧な説明を進めていかなければいけないと思いますし、これはまだ早いかなどは思いますけれども、当然使用されなくなる学校の建物が出てくるわけで、地域の方達が納得できるような利用方法とか計画について、課題ではあるんですけども、これも同時進行なのかなとも思いました。

○吉田市長 ありがとうございます。

ご意見をいただいて、小中一貫教育の考え方として、三浦市としてどういった小中一貫教育を打ち出すかという説明も必要でしょうし、これから様々な機会が必要でしょうから、共通の認識を持って、教育委員さんと教育委員会、学校側も含めて取り組まなければならないということが1つ。

あと通学手段ですが、学校の施設ですとか、そういったことは必ず話題になりますので、それに対して一定程度の答えを持っていかないと、説明はなかなかできないと思いますので、そこは庁内でもきちんと協議をして臨んだ方がいいと思います。

この三浦市学校教育ビジョン、現状ではこういう理念のようなものを打ち出すしか手段がないんですよ。でも、中学校の統合が進んで、これから小学校の適正化ということは、いつかはやらなければならない課題として、我々考えていたわけですから、この3ページにある小学校の資料などを見ると、やはり一定程度の規模にしていく必要があるなと思いますよね。

廣瀬委員がおっしゃったように、小規模校の良さというのは、とても大切にされる方もいるので、そういった意見を無視することはできないでしょうけど、ある程度ケアできるようなこともきちんと考えていかなければならない。そんな中で、理念のような学校教育ビジョンの中で、三浦市として1中学校区1小学校という教育体制を目指すという風に明言するわけですから、これをベースに議論がされます。それで、学校教育ビジョンはこれで決定、ぶれずにこれで行きましょうということになるのかもしれないですけども、色んなご意見はいただくと思うので、そのご意見をどう取り込んでいけるかというのも検討しなければならない。そういった課題がたくさんありますので、この総合教育会議もそうですけれども、学校現場の皆さんの意見をきちんと受け止めて進めていっていただきたいと思います。

小学校6年と中学校3年の、9年間という仕組みは変えられないんですよ。例えば中学校を2年とか、そういうことはできないんですよ。

○及川教育長 義務教育学校ということになると、その辺りは変えられます。

○下里職務代理 義務教育学校になると変えられるんですけども、今の状況では変えられない。ですから、その部分を誤解のないようにしないと、世間の人々が全然違った見方をしてしまう。

よろしいですか。昔、学校の2学期制について、村松さんがいらっしゃった時に、三浦は変則3学期制という形で上手くやっていたのを覚えているんですけども、今回も呼び方を、小中一貫教育というのではなくて、もう少しまい言いはないかなと思うんです。

言い方が変わると、だいぶイメージが変わると思うので、その部分も研究の材料の一つとして必要なんじゃないかなと思います。

○吉田市長 例えはありますか。

○下里職務代理 何かあるわけではないんですが、小中一貫というのを小中連携とか。

○越智委員 義務教育学校にしなくても、一部中学校のカリキュラムを5、6年生に前倒ししたり、小学校での一定評価を変更したりということは可能だと聞いていますが。

○及川教育長 それは可能です。ただ、小学校、中学校という形はあります。義務教育学校になると、その境目がなくなって、小学校の卒業式と中学校の入学式がなくなるということになるんですね。

今回は、小学校と中学校、学校の組織としては2つ残しながら、その中で9年間を見通す環境が整っているわけですから、今のようなこともやれるというわけです。

○吉田市長 色々テクニックはまた出てくるんでしょう。

○越智委員 先ほど言われたような、小中一貫校というのはこのビジョンでは謳っていないんですよ。小中一貫教育ということですね。

ですから、そこで誤解がないようにするためには、私の意見とすれば、欄外に注釈のようなものを設けるなりして、この小中一貫教育は小中一貫校ではないとか、義務教育学校ではないということを入れるなり、説明のタイミングでは必ずそれに触れるとか、そういうことをしていけばいいのではないかなと思いますけれども。

○吉田市長 この学校教育ビジョン（案）の、（案）を取るのはいつですか。

○君島教育部長 この後パブリックコメントが7月16日まで行われます。それまでの間に大きな変化やご意見がないという状態であれば、次の教育委員会で成案の（案）として確認いただいて、その後政策会議で最終形になります。早ければ8月という風に思っております。

○吉田市長 最後のページで「実現に向けて」ということで、地域協議会準備会を立ち上げますとありますが、これは三崎地区と南下浦地区しか書いてありません。

今は初声小学校と中学校がそれぞれ1校でも、三浦市の教育ビジョンについての地域協議会が初声だけ無いというのはありえないですから、初声でも準備会から立ち上げてもらって、初声はモデル校になりうる環境なわけですから、先行的な良い事例を出してもらったり、そういうことが可能なわけです。そういうことはやったらどうでしょうか。

○及川教育長 ありがとうございます。

できるだけ地域の負担がないようにということも考えた部分もあるんですけども、最初にお話ししたように、市全体での取り組みであると思っています。先生方はそういう組織を作っていくことを考えているんですけども、地域の方にも、市内の市民の方全てにご理解いただく、そういう機運を高めながら一緒に子どもたちを育てていくということを考えれば、今のご意見というのは大変ありがたいと思っています。

○吉田市長　高梨課長、実際に初声の小中の、小中一貫教育みたいなイメージというのは実践されているんですか。

○高梨学校教育課長　今現在は、例えばですけども、小学校、中学校の研究テーマを統一しています。同じテーマの下で研究を進めたりとか、先ほどお話がありましたけれども、中学校の理科の教師が時間割を調整して、週に一定時間小学校に入って指導をしています。昨年度、体育も取り入れようという話があったんですけども、色々ありまして実践しなかったんですけど、その足場となる部分については既にできている状態です。

○吉田市長　それによって、初声の小中の子どもたちというのは、学力レベルも上がっているし、体力レベルも上がっているという結果は出ているんでしょうか。

○高梨学校教育課長　まだ結果は出ていないんですけども、例えば中学校側からしますと、小学校から進学した時に、既に子どもたちを知っていますので、指導のしやすさがあるという話は聞いています。子どもたちも知っている先生がいるので、安心して入学しているということも聞いています。

学力については、これから更に検討していきながら、分析もしていきたいと思っておりますが、決して学力は低い位置にいるわけではないと思います。

○吉田市長　子どもたちの数も減って、教育環境を変えていかないといけない。そういう風に大人は迫られているわけです。でも、～すべては子どもたちのために～というのが前提で、子どもたちに良い結果が生まれないと、意味はないわけですから、それを実践する具体的な手段、効果というものをちゃんと検証していかないと、大人には責任があるわけです。ですから、それをきちんと考えてやってもらいたい。市長として、実現してもらいたいという思いがありますので、ぜひ総合教育会議のメンバーの皆さんにもお力をいただいて、これから詰めていきたいと思えます。

そのところを、地域協議会準備会に初声地区もきちんと入れてもらうということと、ハード面でこれからエアコンを設置していきますよね。大変大きな投資をするので、最終的には令和2年にはエアコンが入るわけですが、5～6年したら、学校が無くなってしまうというケースがある場合、投資についても他のところに移設ができるとか、機械の設置等についてちゃんとやってもらいたいと思います。大事なことです。

○増井教育総務課長　エアコンについては、ほとんどが1つの教室に1つの室外機のものを使用しています。ですから移設については可能であると考えています。

○吉田市長 そのあたりを意識しておいてください。

他によろしいですか。

それでは、今回の総合教育会議においては、三浦市学校教育ビジョン（案）について議論していただきました。今いただいたご意見の中のものを取り入れて、もう一度手直しをしてもらって、パブコメがどれだけ来るか分かりませんが、庁内でも意見を集約して、政策決定をして（案）を取って、出していくということで進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。

この件は市民の皆さんの関心も非常に高いですから、大きな期待を背負っているということをも十分認識して、取り組んでいただきたいと思ひます。

○吉田市長 次に「(2)その他」についてですが、皆さんから何かございますか。

○吉田市長 よろしいですか。

それでは議事を終了いたしまして、進行を司会に戻させていただきます。

○君島教育部長 ありがとうございます。

本日予定させていただきました内容はすべて終了いたしましたので、以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了いたします。傍聴者の方はご退出ください。

ありがとうございました。

◇ 午後4時22分 閉会 ◇
